



たまなん通信

文責：横森一哲

ウサギ年、

飛躍の1年とするためにはどうする？



子どもたちが教えてくれました！

令和5年 2023年が、スタートしました。今年は卯年（うどし）、いわゆる兎（ウサギ）年です。3学期の始業式に、次のようなことを子どもたちと考えました。

「ウサギが跳ねるように飛躍の1年としていきましょう。」

「ところで、わたしはもっともっと高く跳ねたいと思っているのですが、どのようにしたら、もっと高く跳ねることができるのでしょうか。」と、わたしは子どもたちの前で実際に跳ねながら聞いてみました。すると、

「もっと、努力するといいです。」という答え。そうですね。まず、精一杯挑戦して、やりきることが大切です。大人が「努力しましょう」というのとは違って、子ども自身が言う「努力」は、まっすぐに聞こえます。素直に自分のできることを精一杯がんばり努力することの大切さを教えてもらいました。

次の答えは、「目標をもつといいです。」とのこと。いつも、わたしが子どもたちと共に追い求めていることです。ただ跳ねるのではなく、ここまでできるようにしようと目標を立て挑戦し、それができたらまた新しい目標を立てて挑戦していくということです。まさに、わたしが子どもたちに伝えてきたつもりのことを、子どもから教えられた瞬間でした。

3つ目の答えは、「座ってから跳ねるといいです。」でした。どうやったらいいのか実際に跳ねてくれました。今よりもっと跳ねるためには、膝を折ってしゃがんで勢いをつけて跳ねるといいと教えてくれました。高く跳ねるためには、しっかりした力を溜める準備が必要です。3学期は、次の学年に大きくジャンプするための準備の時期とも言えますね。

いかがですか。子どもたちってすごいですよね。飛躍の1年とするための、まとめ・準備の大切な3学期をしっかりと過ごし、新しい自分へと飛躍していける1年にできそうです。



努力 目標 準備



児童会役員 学級の代表委員のすごさ！！

12月の児童会選挙を経て、次の児童会役員が決定しました。3月に行われる「6年生に贈る会」の準備・運営に向けて新児童会はスタートしています。現児童会役員も、新児童会役員に完全に引き継ぐまで、児童会活動を推進してくれています。また、3学期の学級を引っ張っていく代表委員も決定して、学級活動がスタートしています。その新児童会役員と3学期の代表委員に、任命書が授与されました。児童会の代表として、学級の代表として、活躍してくれることを大いに期待しています。

児童会活動や学級会活動は、学校生活の中で課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動です。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりをもっていきます。そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになります。学校では、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を重要な視点として指導しています。(以下、学習指導要領解説より引用)

① 「人間関係形成」

「人間関係形成」は、人間関係をよりよく形成することです。集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点です。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見、実践、振り返りなどの学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられます。年齢や性別、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることを大切にしていきます。

② 「社会参画」

「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点です。社会参画に必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれると考えられます。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成されます。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていきます。社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、学級や学校の集団をよりよくしようとするために参画することと、社会をよりよくしようとするために参画することは、「社会参画」という意味で同じと捉えて指導しています。

③ 「自己実現」

「自己実現」は、一般的には様々な意味で用いられますが、ここでは、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとすることです。自己実現に必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれると考えて指導しています。

以上のように見てくると、児童会役員や学級の代表委員のみなさんは、このような学びを全校のみんな、学級のみんなができるように、中心となって頑張ってくれているのだということがわかります。

